

◆◆私らしく、あなたらしく◆◆

# ノン・イベント

和泉昭子（いずみ あきこ）  
生活経済ジャーナリスト。横浜国立大学卒業後、出版社・放送局を経て、フリーのキャスターに転身。NHKを中心に、ニュース・情報番組を担当。95年CFP®取得後、現職へ。現在は、各種メディアや講演、個人相談を通じて、マネー&キャリアの情報を発信。



キャリアカウンセリングの勉強をした際いちばん感銘したのは、ナンシー・K・シュロスバーグの「転機」に関する考え方。転機というと、就職や結婚・出産など、何かが起きたこと（イベント）による変化ととらえがちですが、何も起こらなかったこと（ノン・イベント）もまた、大きな転機だということです。

たとえば、希望部署への異動がかなわなかった、昇進を期待していたのにしなかった、結婚すると思っていたのにできなかったなど。表面的には何も起こらず、以前の生活がそのまま続いているように見えるのですが、実はノン・イベントのほうがいざ深い傷を残すというのは、目からウロコの話でした。

30代後半の女性が保険の相談に見えたこととです。なぜ見直しを考えているのかたずねたところ、これまで子どもができることを前提に考えてきたけれど、年の離れた夫がもうすぐ50歳になるので、夫婦ふたりの人生設計に切り替えるつもりだと話してくれました。

子どもができても十分なように、夫は死亡時5000万円の大型保障をつけていました。ボーナスはすべて不妊治療に注ぎ込んできたため、貯蓄額は100万円ほどです。これでは老後が不安。「ママになるつもりだったから、今まで専業主婦でいられたけれど、これからはやりがいのある仕事と夫婦共通の趣味を探したい」とも言っていました。保険の

見直しというマネー相談の背景には、その人の価値観や複雑な事情が隠れていたのです。

シュロスバーグは転機を乗り切るための4つのSとして、「セルフ」「シチュエーション」「サポート」「ストラテジー」をあげています。セルフとは、自分自身をよく知ること。キャリアの分野でいえば、自分の大切にしている価値観や能力などについて確認することです。マネーであれば、ライフプランや収入すでに持っている資産などについて洗い出す作業です。

シチュエーションは、自分が置かれている状況のこと。社会全体や経済の動向、会社や家族をとりまく環境変化を把握することが大切です。

サポートというのは、どんな支援を得られるか。家族や同僚、友人などから受けられる支援もあるでしょうし、その道のプロにアドバイスを求める方法もあるでしょう。

私がしているのは、お金や仕事の分野で専門的に支援を行う仕事。金融機関にお勤めの皆さんも同じように、直接・間接的にさまざまな転機に立ち会い、人生のサポートをしているわけです。

これらのSを押さえたうえで、ストラテジー（戦略）を立てれば、どんな転機も乗り越えられるというのが彼女の理論。最近、けっこうシビリアなノン・イベントを受け入れた私も、この4つのSで新たな人生を切り拓こうとしています。